

## 船舶事故調査報告書

平成22年7月29日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成21年5月3日（日） 11時48分ごろ
発生場所	静岡県下田市下田港東防波堤灯台から真方位208° 770m付近 （概位 北緯34° 39.6′ 東経138° 57.1′）
事故調査の経過	平成21年5月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか2人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 <sup>せいらい</sup> 清栄丸、7.9トン TK2-1897（漁船登録番号）、個人所有 11.60m(Lr)×3.54m×1.25m、FRP ディーゼル機関、358kW、平成15年10月19日 B モーターボート <sup>フレンズ</sup> FRIENDS、5トン未満 235-34033静岡、株式会社カラーズ 6.32m(Lr)×2.40m×1.16m、FRP ガソリン機関、84kW、不明
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成17年4月1日 免許証交付日 平成17年4月1日 （平成22年3月31日まで有効） B 船長B 男性 61歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成13年6月22日 免許証交付日 平成17年9月15日 （平成23年6月21日まで有効）
死傷者等	A なし B 負傷 1人（船長B）
損傷	A 船首部船底にき裂及び擦過傷 B 操舵室及び右舷船尾部が損壊して浸水
事故の経過	A 船は、船長Aほか1人が乗り組み、船長Aが単独で船橋当直につき、下田港犬走島東方沖を通過後、港界付近で建設中の中央の防波堤（以下「中央防波堤」という。）東端の北方に設置された黄色の浮標を船首目標とし、速力約7～8ノット（kn）で手動操舵により航行した。 船長Aは、犬走島南方沖を南南西進中、右舷船首方に南進中の下田港内遊覧船（以下「港内遊覧船」という。）を認めため、速力を約14knに

	<p>増速して下田港赤根島東方沖付近で港内遊覧船を追い越したが、同遊覧船に気を取られ、右舷後方を見ながら航行していたところ、平成21年5月3日11時48分ごろ衝撃を感じた。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、09時45分ごろ中央防波堤東端の北方で錨泊し、機関を停止して釣りを開始した。</p> <p>船長Bは、11時48分ごろ、操舵室の操縦席で船首方を向いて携帯電話で通話中、衝突の衝撃で甲板上に投げ出された。</p> <p>船長Aは、B船と衝突したことに気付き、海上保安部に通報するとともに、船長Bを救助するため乗組員を移乗させようとしたが、両船の乾舷差から移乗させられなかった。</p> <p>B船は、来援した小型漁船によって錨が揚げられ、船長Bを乗せた状態でA船によりえい航され、下田港の岸壁に着岸した。</p> <p>船長Bは、着岸後、救急車で病院に搬送され、外傷性頸部症候群及び前額部挫創と診断された。</p>	
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 西、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の初期</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>船長Aは、GPSプロッターを使用していたが、レーダーは使用していなかった。</p> <p>中央防波堤付近海域は、白波が立っていた。</p> <p>B船は、船体が白色で、本事故当時、西方に向首していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>A船は、下田港において南南西進中、船長Aが、港内遊覧船に注意を奪われ、船首方の見張りを行わずに航行し、錨泊中のB船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、中央防波堤東端の北方に設置された黄色の浮標を船首目標とした際、B船が白波に紛れ、B船の存在を見落とした可能性があると考えられる。</p> <p>船長Bは、操舵室の操縦席で船首方を向き、携帯電話で通話していたので、右舷方から接近して来るA船に気付かなかったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、下田港において、A船が南南西進中、B船が錨泊中、船長Aが船首方の見張りを行わなかったため、B船に向けて航行し、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	